

# 衛生の祖 長与専斎

会場 歴史資料館 企画展示室 期間 令和8年1月20日(火)～2月23日(月祝) 10:00～18:00  
作成 大村市歴史資料館

## 「衛生」の祖 長与専斎

長与専斎（1838～1902）は、大村藩医の長与中庵の子として生まれましたが、幼い時に父が亡くなつたため、祖父の俊達によって育てられました。

祖父の俊達は、早くから蘭学を学び、古田山で牛痘種による庖瘡（天然痘）治療に成果を挙げていました。その祖父の熏陶を受けた専斎は、16歳で大坂の緒方洪庵の適塾に入門して蘭学を、長崎の医学伝習所や精得館などで西洋医学を学び、俊達の跡を継いで、種痘を行いました。

1871（明治4）年に上京した専斎は、岩倉使節団に同行して欧米諸国の医療制度を視察。帰国後は、内務省の初代衛生局長として近代的な医療制度を確立し、「衛生」という言葉をつくりました。また、上下水道の整備をはじめ、伝染病発生時の対応など、「官」と「民」の協調による国民の健康保護制度の確立に尽力しました。



## 専斎ゆかりの場所



### 古田山庖瘡所跡（東大村2丁目、市指定史跡）

専斎の祖父の俊達が庖瘡の治療を行つた場所。

庖瘡は伝染力が強いため、大村藩では患者を隔離し（「山揚げ」）、治療を行つてきました。

俊達は、1830（文政13）年からこの古田山で庖瘡の治療と研究を行い、それまでの鼻から接種する方法から、より安全な「腕種法」という方法を考えました。そして、長崎オランダ商館の医師のモーニケがもたらした牛痘種を導入し、庖瘡の予防に成功しました。

### 長与専斎の旧宅（久原2丁目、市指定史跡）

国立長崎医療センターの敷地内にある専斎の旧宅は、祖父の俊達が片町に与えられ、「宜雨宜晴亭」と呼んだ屋敷の一部を、1958（昭和33）年に多くの人たちの協力により移築しました。

俊達が亡くなつた後は、専斎の家族たちが住んでいましたが、専斎の家族が上京した後は、同じ藩医家の田中家が住みました。2013（平成25）年には、大村市民病院の敷地内にあった専斎の胸像と、東京にあつた長男の称吉の胸像が移設されました。

## 【初公開！】新収蔵資料 横村宛て長与専斎書簡

奉拝謁候、先日者推參得  
拝誦、益御清寧之旨、  
御願申上候儀ハ、早速宮  
内大臣へ御申込被下候趣、奉鳴  
謝候、何卒此際御庇を以て  
多少之恩賜有之候様仕  
度、否フサレハ今日之情況  
逆も奠都祭・博覽会之  
大挙を関西赤利流行  
之中ニ引請候程之準  
備者、万々無覚束相見、  
痛頭仕候事ニ御座候、乍此  
上折を以て向々可然御助  
言奉仰候、將又、先年京  
都予防救護之御条知  
書賜御借覽反許披  
閱、當時御尽力之模様、  
歷々如在其地、小生ニ於テモ  
今昔之感ニ堪兼申候、實ニ  
當時之精神を以て、今  
日之人民ニ臨ニ候ハヽ、多少  
反抗之事者有之事力も  
いたせ、又幾分衛生上之知  
識も進ニ居候故、至理ニ  
存スル所ハ、實際一概ニモ

即ち事の如きを以て爲ふ事  
世論の如きは極めて早  
帝室とては頗る煩とされ  
ては居手に之を以ては傳  
下御と仰せられ其の榮  
危とて御と仕合す而  
行と御相手せ  
空と之と事假り奉  
地と下と云ふ事手と  
徳と傳と仰下とお思  
て更に之を主と云ふ  
君の存はすと云ふ事  
事上と云ふ事の傳承  
事と傳承事と云ふ事  
事と傳承事と云ふ事  
事と傳承事と云ふ事

嫌忌者致し申間敷、自  
然来年之準備ナトモ  
世話之致様、次第に者、  
帝室を奉煩候迄モナク  
行届キ可申ニ、今日者仮令  
下賜を仰ガるも、其始末ヲ  
危フニ候程之仕合、痛  
頭之度無御座候、  
閣下之御感慨恐察ニ  
堪ヘ不申候、御書類者高  
諭ニ任せ、柳下ヘも相廻シ、  
一覽為致置申度、今  
暫御許借奉願候、近日  
参上、尚宮内之模様  
并ニ御礼等、万々可申陳  
候得共、不取敢拝答候、如此、  
□々敬白  
五月十一日 専斋  
□々  
檜村明公  
閣下

・制作年代：(明治 27 年) 5 月 11 日 　・作成者：長与専斎 　・所蔵：大村市歴史資料館 　・資料群名：資料館資料  
長与専斎が、京都府知事などを務めた槇村正直 (1834~1896) と思われる人物に宛てた手紙です。

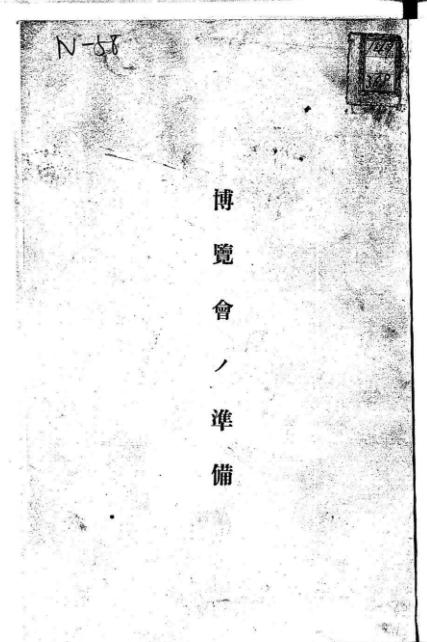
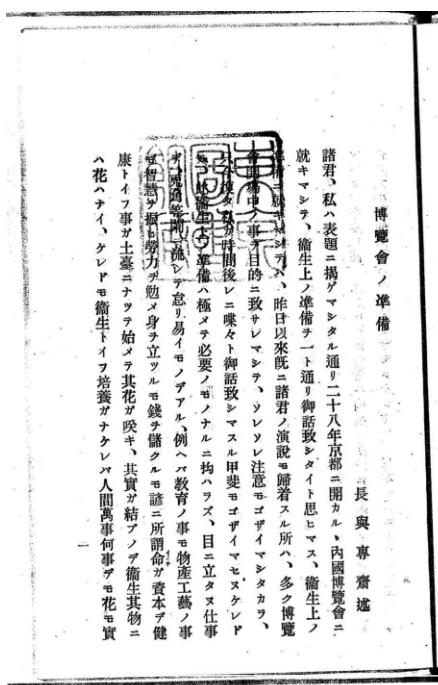
日本で赤痢が流行する中、1895（明治28）年に京都で奠都（てんと）祭と内国勧業博覧会が開催されることになりました。専斎は、赤痢予防の準備を進めるため、横村から衛生関係の書類を借りたようです。手紙はそのお礼を述べたもので、国民の衛生の知識も増しており、予防に対する国民の反発も少ないのでとの考え方を示しています。

# 健康保護における「官」と「民」の協調

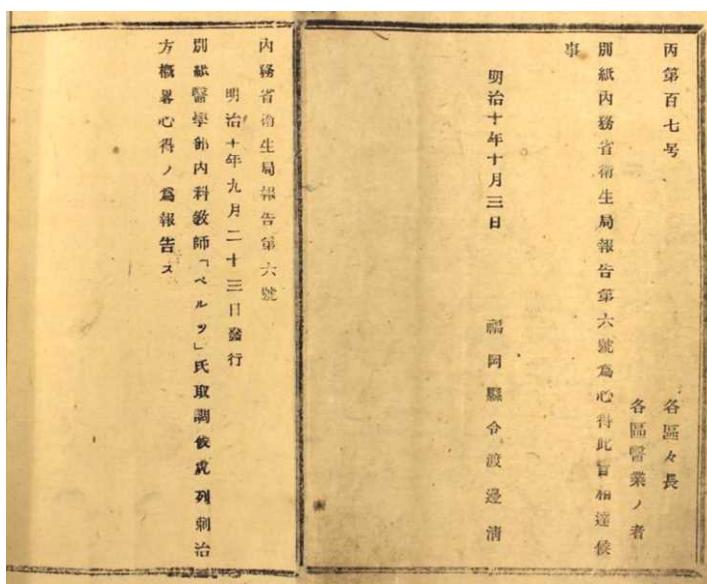
専斎は、伝染病等から国民を守るために、政府や自治体の制度やインフラの整備とともに、国民一人ひとりの衛生に関する「自覚」が必要と考え、「官」と「民」が協力してこそ実現できると考えました。

専斎は、槇村に宛てた手紙の中で、博覧会により京都で伝染病のリスクが高まることを懸念し、その準備の必要性を説いています。そのことは、1894

(明治 27) 年 4 月に大日本私立衛生会の総会の「博覧会ノ準備」という講演でも述べています。講演では博覧会を「非常事態」としてとらえ、会場の消毒や患者の隔離など、官民をあげた準備の必要性を説いています。



長与専斎 著『博覧会ノ準備』, 大日本私立衛生会京都支会, 明27.5. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/801961> (参照 2026-01-20)



## 虎烈刺病治療之儀二付布達

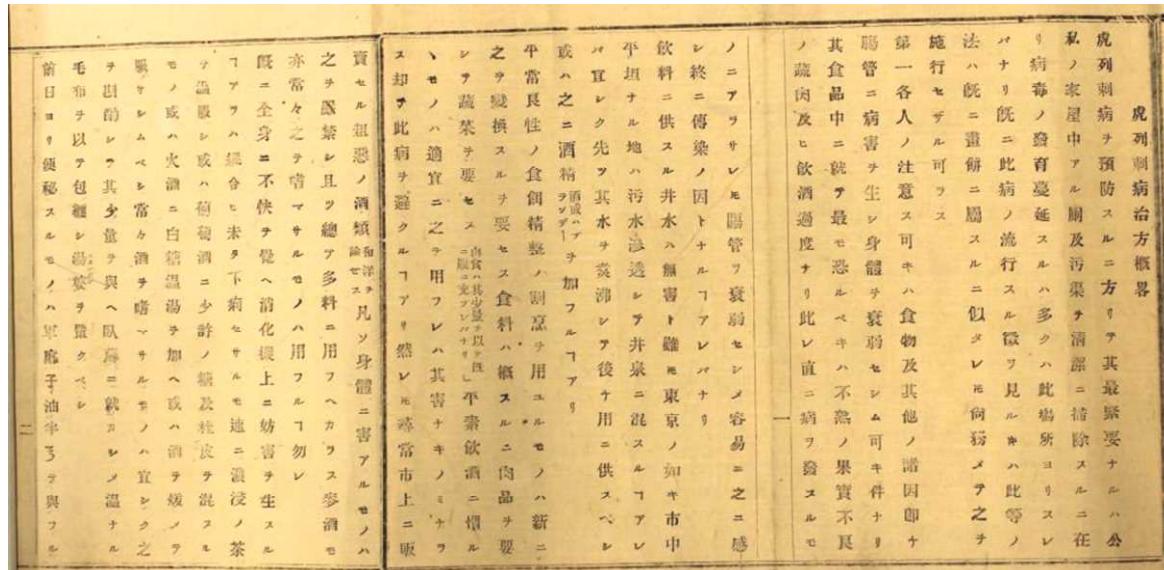
・制作年代: 1877・79(明治 10・12)年

・作成者: 福岡県令 渡辺清

・所蔵: 大村市歴史資料館

・資料群名: 渡辺清家資料

福岡県令の渡辺清が、1877 (明治 10) 年と 79 年に県下の医師に通達したコレラの治療法。コレラの症状ごとに細かな治療や食事などを指示しています。特に明治 10 年 10 月のものは、専斎を中心とする内務省衛生局)がまとめたものです。衛生局から各県へ、そして県から県下の各郡・区の医師に下ろしていくという仕組みがわかります。



# 長与専斎年表

西暦	満年齢	できごと
1815		祖父の俊達が大村藩の医師となる
1830		藩の命令により俊達が古田山痘瘡所を開く
1838	0	専斎、大村で出生
1841	3	父の中庵死去
1849	11	五教館に入学
1850	12	俊達が藩から牛痘接種法の許可を得る
1854	16	適塾に入塾
1855	17	俊達が死去
1858	20	福沢諭吉に代わり適塾の塾頭になる
1859	21	適塾から大村にもどる
1860	22	長崎医学伝習所（のちの精得館）でポンペの指導を受ける
1862	24	後藤園子と結婚
1863	25	大村に戻り家業を継ぐ
1865	27	藩主大村純熙の銃創を治療
1866	28	藩命により長崎へ再遊学
1868	30	精得館（のちの長崎医学校）の頭取となる
1871	33	文部省に入省、10月 岩倉使節団に同行し欧米視察
1873	35	帰国、文部省医務局長になり「医制」を提出（翌年公布）、東京に司薬場開設
1874	36	牛痘種継所を開設、東京医学校（現在の東京大学医学部）校長就任
1875	37	初代内務省衛生局長、東京などで医師の試験制度を開始（翌年全国実施）
1877	39	大久保利通内務卿に「衛生意見」提出、「コレラ予防心得」策定
1880	42	「伝染病予防規則」を制定する
1882	44	中央衛生会副会長、就任、三重県の二見浦海水浴場（全国初の海水浴場）開場
1883	45	「衛生事務拡張に対する意見」提出、大日本私立衛生会を設立し副会頭就任
1884	46	鎌倉海水浴場を開設、東京都の神田下水道工事が始まる
1886	48	元老院議員（内務省衛生局兼任）
1888	50	日本薬局方調査委員長、就任
1890	52	「伝染病予防及消毒心得書」策定、貴族院議員（中央衛生会会長を兼任）
1891	53	衛生局長を退任
1892	54	北里柴三郎の伝染病研究所が完成
1896	58	旭日重光章を受章
1897	59	伝染病予防法案審議のための特別委員会委員となる
1901	63	大日本私立衛生会の会頭就任
1902	64	大日本私立衛生会会頭を退任 9月8日、死去 東京都の青山靈園に葬られる

参考文献：長与専斎『松香私志』。小島和貴『長与専斎』長崎文献社、2019年。

## 【御案内】海堂 尊氏講演会

### 「蘭医療から奏鳴曲まで 幕末から明治の医療をリードした長与専斎」

緒方洪庵の適塾で学んだ大村出身の長与専斎について御講演いただきます。

- ・日 時：令和8年3月14日（土）13：30～15：00（13時開場）
- ・場 所：ミライon図書館 1階多目的ホール
- ・定 員：90人（事前申込み制・先着順）
- ・お問合せ、申込み先：ミライon図書館 ☎ 0957-48-7700、FAX 0957-48-7703

# 大村市歴史資料館 企画展 「衛生の祖 長与専斎」展示資料リスト

## 大村市歴史資料館 企画展示室